

「喫煙管理を組み込んだ妊婦ドック」

島 本 郁 子

妊娠の喫煙による害は、すでに多数報告があり、有害性は明らかである。しかし、最近10年間に喫煙者は173万人も増加し、現在の喫煙人口は587万人を数える。また、20才代の喫煙率は16.4%で最も高く、妊婦の喫煙率の増加が懸念されている。1992年、当科で分娩した喫煙妊婦について喫煙本数と胎児体重を比較すると、10本/dayは3085g、20本/dayは2850gであり、20本群は235gの低下傾向を認めた。また妊婦の受動喫煙の影響は明らかで

はないが、最近、受動喫煙妊婦に高度の胎児発育障害例を経験した。夫からの受動喫煙30本/dayの妊婦は、1日約8時間車中でたばこに曝露されて、38週で1890g(-3SD)のIUGRを出産した(表1)。

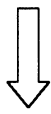
今後は①喫煙および受動喫煙妊婦のニコチン量を測定し、妊婦ドックにおける禁煙指導を強化する。②奈良県下に妊婦の禁煙ならびに受動喫煙のパンフレットを配布し、その効果について検討する。

表1 妊婦の喫煙と児体重

| | 能動喫煙 | | 受動喫煙 |
|---------|---------|---------|---------|
| | 10本/day | 20本/day | 30本/day |
| 禁煙本数 | 10本/day | 20本/day | 30本/day |
| 在胎週数 | 39週±5日 | 38週±3日 | 38週+6日 |
| 児体重(g) | 3085 | 2850 | 1890 |
| 胎盤重量(g) | 556 | 515 | 340 |



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



妊娠の喫煙による害は、すでに多数報告があり、有害性は明らかである。しかし、最近 10 年間に喫煙者は 173 万人も増加し、現在の喫煙人口は 587 万人を数える。